

呼吸器外科

■研修目標

1年次ローテーションでは、外科系診療科として病棟、手術室での患者診療の基本を習得することが目標です。なお、外科専門医を取得する上で必要となる呼吸器外科関連の修練経験は最低限取得できるよう、配慮します。

2年次ローテーションでは、1年次の研修内容に加え、外科専門医、将来の呼吸器外科専門医取得のためにさらに習得すべき診療技能の習得を念頭に入れた研修を行います。

実際には、

- 外科医として必要な基本技術（病棟での創傷処置、手術室での糸結び、周術期管理など）の習得に加え、上級医とともに患者診療を行う。
- 病棟カンファレンスにおいて患者の病状を的確にわかりやすくプレゼンテーションできるようになる。
- 院内での処方、指示の出し方、他専門職との連携・チームワークの重要性を学ぶ。
- 呼吸器外科診療に必要な検査・処置に習熟し、臨床応用する。
胸腔ドレナージ、人工呼吸器管理などの外科的クリティカルケアも習得する。
- 呼吸器外科診療の柱であるがん治療：呼吸器内科・放射線診断科・放射線治療科などと連携して行われている集学的治療の知識をまなぶ。
- 外科専門医修練カリキュラム（平成21年4月改定）で定められている、術者または助手として経験すべき呼吸器外科手術手技の最低必要症例数は10例。当科の1年次ローテーション2ヶ月以内に十分経験できる症例数である。
- 科内のその他のカンファレンス（M&Mカンファレンス、放射線科・呼吸器内科との合同カンファレンス）に参加し、呼吸器外科関連の多くの知識を得る。
- 先端医療であり当科で行われている肺移植診療にも参加し、術前管理・周術期管理を経験する。
- 各種学会（地方会など）での学会発表も経験する。文献の検索、プレゼンテーションの作成、論文の作成などの方法を、上級医の直接指導のもとに身につける。

■具体的な研修内容

- 週に2-3日程度病棟当番担当となる。担当日には呼吸器外科入院全患者を上級医（医員、スタッフの2名）の直接の指導の下に受け持つこととなる。入院患者の胸部レ線、血液検査等検査により患者さんの状況を把握してもらい、適切な診断・処置の指導が上級医師によって行われる。
- 毎週金曜日は呼吸器外科レクチャーもしくはEnglishレクチャーを行っている。呼吸器外科レクチャーでは各スタッフが呼吸器外科領域の基礎・応用知識をわかりやすく講義する。Englishレクチャーでは若手医師を含む様々な医師による英語によるプレゼンテーションを行い、英語をより身近に経験してもらう。